

公益財団法人 東燃ゼネラル石油研究奨励・奨学財団
第37回（平成29年度）研究奨励助成（奨学寄附金）募集要綱

当財団は、東京に事務所を置き、昭和56年から今日まで、わが国の重要課題であるエネルギーに関連する分野で、優れた研究や技術開発に携わっている人々に助成金をもって援助を行う公益財団法人です。

（昨年までの助成総件数：567件、助成総額：5億9,088万円）

このたび当財団では、平成29年度の研究奨励助成の募集要綱を、別紙のとおり、決定いたしましたので、ご案内申し上げます。萌芽的な研究、ユニークな研究、チャレンジングな研究に重点をおいて援助する考えです。新進気鋭の応募を期待しております。

1. 募集対象

当財団は資産規模が小規模なことから、募集対象校を下記の14校に限らせて頂いておりますが、広く優秀で画期的な研究課題を募集すべく当財団の役員、評議員及び選考委員の推薦に基づき、貴大学を本年度の募集対象大学として選ばせて頂きました。つきましては、1校2件の応募となりますが、是非とも当財団の研究助成に応募していただきたくお願い申し上げます。

また、当財団では、例年、若手研究者の育成に重点を置いているため、既に教授となられた方のご応募は、ご遠慮下さいますようお願い申し上げます。

2. 対象研究課題

下記の研究課題で、現に研究開発を行っているか、または具体的に研究着手の段階にあり、3年以内を目処として明確な成果が期待できるものを対象とします。

基幹技術・先端（先進）技術を問わず以下の研究開発テーマ

（1）エネルギーに関連する次の分野

- ① エネルギー製造・輸送・貯蔵等に関する研究開発
- ② エネルギー利用効率化に関する研究開発
- ③ 代替エネルギーに関する研究開発
- ④ 環境保全や安全向上のための研究開発
- ⑤ 工業材料に関する研究開発

（2）炭化水素原料有効利用に関する次の分野（但し、医薬品関連を除く）

- ① 炭化水素誘導体及びその製造法に関わる研究開発
- ② 炭化水素をベースとする新素材の研究開発

3. 研究助成金（奨学寄附金）及び助成件数

平成29年度研究助成金は、総額2,500万円程度、助成件数17～25件。
（一件当り、原則、100万円（昨年度最高額250万円））を予定しています。

4. 応募方法

それぞれの大学が定める関連学部長、または大学院研究機関の長の推薦を得て
ご応募願います。

5. 応募書式

別添の推薦書用紙（1セット7ページ）、または、同一のフォーマットに所定事項を記載し、当財団宛に1部を送付してください。

推薦書に写真等、画像の挿入をして頂いても構いません。

作成に際して、ファイルフォーマット（Word ファイル）が必要な場合は、後記の財団メールアドレス迄ご連絡ください。

6. 募集締切り

平成29年8月末日までに上記「推薦書」を財団必着にてお願い致します

7. 選考方法

当財団において、下記の選考委員会により選考の上、理事会にて決定致します。
尚、応募件数が多い場合は、企業側委員による第1次選考を行います。

また、特定の大学へ助成が集中することを避けるため、最終選考では1校当りの助成件数を制限することもあります。

[選考委員会]

委員長	田村 昌三	（東京大学 名誉教授）
委 員	伊藤 献一	（北海道大学 名誉教授）
同	西出 宏之	（早稲田大学 先進理工学部 学部長・研究科長）
同	河本 邦仁	（名古屋大学 名誉教授）
同	江見 準	（金沢大学 名誉教授）
同	岡崎 慎司	（横浜国立大学大学院 工学研究院 教授）
同	岡崎 健	（東京工業大学 名誉教授）
同	松村 秀一	（慶應義塾大学 名誉教授）
同	高橋 裕	（元ゼネラル石油（株）中央研究所長）
同	鈴木 實	（元ゼネラル石油（株）技術サービス試験室長）
同	今津 秀則	（元ゼネラル石油（株）潤滑油供給・企画部長）
同	西村 純一	（現 JXTG エネルギー（株）

執行役員 中央技術研究所副所長）

8. 選考決定及び結果の通知

平成29年12月に、前項により選考決定し、同月中に結果を、応募者及び推薦者宛文書によりご通知いたします。

9. 研究助成金（奨学寄附金）贈呈

平成30年2月中旬に贈呈式を開催すると共に、3月に銀行振込にてご送金いたします。

10. 成果報告

- 1) 助成金受領者は、受領1年後の平成31年3月末までの研究成果について、助成金の使用実績と共に、平成31年8月末までに当財団にご報告頂きます。
- 2) 上記の研究成果報告（隔年発刊）は、平成31年12月に発行予定の当財団「研究報告書（第19号）」に収録掲載し、関係先に配布しますので、ご応募に当たり予め ご了承願います。

11. 研究助成金（奨学寄附金）の使用

- 1) 助成金の受領後、その使途が変わる場合は、当財団に報告し、当財団の承認を必要とします。
- 2) 助成金は、平成30年度末（平成31年3月末）までに使い終える必要はありません。全額あるいは、一部を平成31年度に繰り越して使うことができます。

12. 再応募

昨年度以前に応募され助成の対象にならなかった方の再応募も受け付けます。

13. 推薦書類送付先・連絡先

〒108-8005 東京都港区港南1-8-15 Wビル
公益財団法人 東燃ゼネラル石油研究奨励・奨学財団 事務局
電話：03-6713-4645 FAX：03-5495-2785
メールアドレス **gsk.zaidan@marble.ocn.ne.jp**

以上

整理 No

—

第 37 回 (平成 29 年度)

東燃ゼネラル石油研究奨励・奨学財団 研究助成 (奨学寄附金) 推薦書

平成 年 月 日

公益財団法人 東燃ゼネラル石油研究奨励・奨学財団

理事長 岡井 政義 殿

推薦者 所 属 _____

住 所 〒 _____

電話 — —

役職・氏名 _____ 印

下記の通り、東燃ゼネラル石油研究奨励・奨学財団の研究助成候補者を推薦します。

記

1. 代表研究者 (開発者)

ふりがな

氏 名 :

生 年 月 日 :

所 属 :

専攻・職名 :

所 在 地 :

PC メールアドレス :

自 宅 住 所 :

2. 協同研究者

氏 名 (年令) 所属大学・学部・院・科 職名

(1) ()

(2) ()

(3) ()

(4) ()

3. 代表研究者の略歴

年 月

年 月

年 月

年 月

年 月

4. 研究（開発）の題目

5. 該当する助成課題

（募集要綱の 1. 助成課題のうち、もっとも適合する項目番号に一つ○印を付けてください）

基幹技術・先端（先進）技術を問わず以下の研究開発テーマ

（1）エネルギーに関連する次の分野

- ①エネルギー製造・輸送・貯蔵等 ②エネルギーの利用効率化 ③代替エネルギー
④環境保全や安全向上 ⑤工業材料

（2）炭化水素原料有効利用に関する次の分野（但し医薬品関連は除く）

- ①炭化水素誘導体及びその製造法 ②炭化水素をベースとする新素材

6. 研究（開発）の背景

（わが国及び国外の現状と、これらの関連での当該研究（開発）の持つ役割、意義などについて記入してください）

7. 研究（開発）の目的

整理 No

—

8. 研究（開発）の計画大要

（上記計画を策定するに当たって重視した点を、キーワードとして三つ挙げてください）

整理 No

—

9. 研究（開発）の予想される問題点と対応策

（計画が、予想に反して著しく困難になるような事態としては、どのようなことが考えられますか？

また、その対策について記入してください）

10. 研究（開発）の成果の見通し

（3年後ぐらいまでの研究成果・達成事項の見通しを記入してください）

11. 研究（開発）の独創性・先行性

（当該研究（開発）の独創的・先行的なポイントを簡潔に記入してください）

整理 No

—

12. 研究（開発）の波及効果

（期待しうる学術的・工業的な直接的効果、及び関連分野への間接的な寄与度・波及効果について記入してください）

13. 研究（開発）の期間及び必要経費

（経費については、当財団の助成金額とは無関係に総額を具体的に記入してください）

(1) 研究（開発）期間

年 月 — 年 月

(2) 必要経費

項 目・内 容

金 額（千円）

合 計

14. 当該研究（開発）又は関連する研究に対する他からの助成について

研究テーマ	金額（千円）	期 間
(1) 校費		～
(2) 文部科学省科学研究費		～
(3) 国公立機関の委託研究費、補助金		～
(4) 財団等その他諸団体の援助金		～
(5) その他（ ）		～

15. 最近 2 年間の実績 (平成 27 年 1 月以降～)

(当該研究開発に関するものに限らず、申請者が行った研究開発に関する論文、及び学会口頭発表について記入してください。評価点に加算されますので出来るだけ記載してください。)

(1) 論文誌発表 (主なものを 10 件書いてください。)

そのうち、申請者が主研究者である論文は、必ず別刷りを添付して下さい

(2) 学会口頭発表 (主なものを記入してください。)

整理 No

—

16. 受賞暦等

(これまでの受賞・特許取得・学会活動等、当財団の助成を受けるについての特記事項がありましたら記入してください。)